



## 図書館からのお知らせ



## 利用者カードのデザインが変わります

みなさんの投票で利用者カードの新しいデザインが決定しました。  
新しく発行するカードは、表面に貸出本の書名が印字されるリライトカードから、  
バーコード読み取り式のカードになります。  
※すでに利用登録されている方は、現在お持ちのカードを引き続き利用できます。



## 障がいのある方も利用しやすいようサービスを行っています

## 【対象になる方】

春日井市内に在住、在勤、在学で心身の障がいその他の理由により来館することが著しく困難な方。  
視覚障がい者またはその他視覚による表現の認識に障がいのある方。

★事前登録が必要です。(本人確認書類と障がいの程度が確認ができるものを持って、図書館2階事務所またはグルッポふじとう2階総合カウンターまでお越しください。)

## 図書等の無料郵送貸出

来館が困難である方に、一般図書を春日井市図書館から無料で郵送貸出します。

## 対面読書

視覚障害などのため、活字を読むことが困難な方に、対面で図書をお読みします。

## サピエ図書館の利用

視覚障害などのため活字を読むことが困難な方に、サピエ図書館が配信している点字図書や録音図書データを提供します。

## 録音図書（ディジー図書）、点字図書の貸出

視覚障害のため活字を読むことが困難な方に、点字図書・録音図書を春日井市図書館から無料で郵送貸出します。

詳細は <https://www.kasugai-lib.jp> 図書館案内>利用案内>各種サービス>障がい者サービス

## 読書感想画コンクール優良作品展



2月6日(金)～8日(日) 文化フォーラム春日井 1階ギャラリー

10:00～17:00(8日は15:00まで) 市内小中学生が描いた読書感想画の作品を展示します。

春日井市図書館 電話：(0568)85-6800

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5丁目44番地 文化フォーラム春日井 3・4階

開館時間：午前9時～午後8時 休館日：月曜日（休日の場合はその直後の休日でない日）



おすすめ本紹介

# 研 究



研究のきっかけ、観察のよろこび、変化のおもしろさ、思いがけない発見を楽しみながらその時代背景やドラマを感じてみませんか。



## 『日本の化粧の変遷100年』

資生堂ビューティークリエイションセンター/監修 玄光社

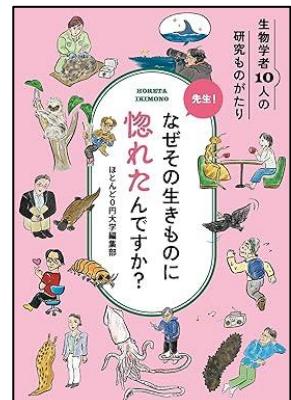
383.5/ニ/23

人はなぜ化粧をするのでしょうか？こんな自分は見たことないとびっくり！気がつかなかった自分の魅力を引き出してくれる魔法は、時代と共に変化してきました。化粧を通して、各時代の世の中の雰囲気、価値観を感じることができます。

## 『先生！なぜその生き物に惚れたんですか？』

ほとんど0円大学編集部/著 玄光社 480.4/セ/25 (知多公民館)

10人の生物学者たちがどのようにして研究対象とする生きものに出会い、何に心を動かされたのか？がわかる本です。生きものに対する思いや距離感こそさまざままで十人十色ですが、静かな情熱には共通するものを感じます。生物学者たちと生きものとのストーリーを楽しんでください。



## 『本当はスゴいばっちょいもの研究所』

坂井 建雄/監修 編集室オトナリ/編著 岩崎書店 49/木/25

人の体から出る13の「ばっちょいもの」について49の疑問をわかりやすく解説しています。みんなが気になる疑問を解き明かしながら、体のしくみを知れば、「ばっちょいもの」はどれも健康を保つためになくてはならないものだとわかります。体から出るものにもっと興味がもてるだけでなく、ステップアップした体のお手入れにも挑戦してみたくなる一冊です。



おすすめ本紹介

# 図書館



「図書館の蔵書の充実が健康長寿の街づくりに有効である可能性がある」というユニークな研究結果が発表され話題になりました。本と出会う楽しさはもちろん、図書館という空間そのものの魅力について書かれている本をご紹介します。



## 『図書館は生きている』

パク キスク/著 柳 美佐/訳 原書房 010.4/ト/23

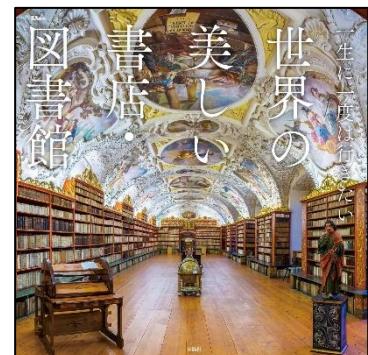
米国の公共図書館に長年務めた著者のハートフルな日常を描いたエッセイ。

楽器の貸出や練習室の提供、利用者のためのお葬式、耳栓の自販機がある図書館など、世界の図書館のおもしろ＆びっくりエピソードも満載です。誰かにとって癒しの空間、追憶の空間になりうる図書館。読み終えるといつもの図書館が少しあたたかく思えてきます。

## 『一生に一度は行きたい世界の美しい書店・図書館』

宝島社 010.2/イ/23

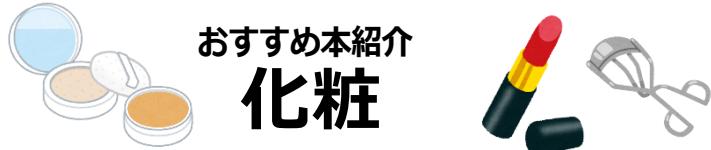
世界各地の歴史ある図書館や個性豊かな書店を、美しい写真とともに紹介する一冊。世界遺産に登録された図書館、数々の映画の舞台になった図書館など、荘厳な建築や芸術的な空間に、思わずうっとりしてしまいます。そして、長い年月の中で「知の遺産」を守り続けた古の人々の熱い想いを感じずにはいられません。



## 『図書館にまいこんだ子どもの超大質問』

子どもの大質問編集部/編 青春出版社 015.2/ト/24

「これって何？」「どうして○○なの？」子どもから集まったユニークな質問に図書館司書が大奮闘。今、知りたい！このタイミングを逃さず、大人が質問に真剣に答えることは、子どもの成長の芽を育むことになるでしょう。私たちもピュアな気持ちで好奇心・探求心を持ち続けたいものです。

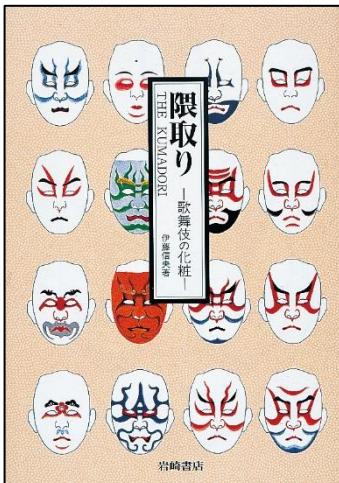


おすすめ本紹介

# 化粧

広辞苑によると「化粧とは紅（べに）白粉（おしろい）などをつけて顔を装い飾ること」とあります。

化粧は、身だしなみや自分に自信をもつための手段でもあると思います。時代とともに、進化しつづける化粧にまつわる本をご紹介します。



## 『隈取り 歌舞伎の化粧』

伊藤 信夫/著 岩崎書店 774.6/ク/03

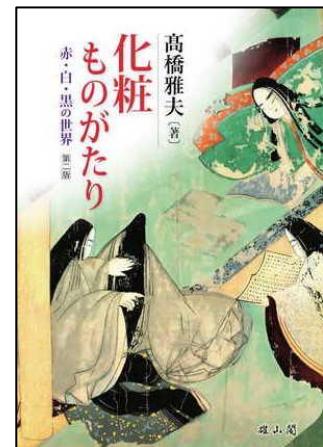
隈取りは初代市川団十郎が 1673 年に初舞台を踏んだ時に始まったと言われています。隈取りは、歌舞伎役者が地色である白塗りの顔に血管や筋肉の筋を色で大袈裟に表現したもので、役の性格を変えるとき隈取りも変えて演じられてきました。

歴代歌舞伎役者の演目に合わせた隈取りが紹介されており、化粧の仕方で喜怒哀楽、亡靈、猿や虎まで表現され動きまでもが想像できる、化粧の凄さを感じることができます。

## 『化粧ものがたり』

高橋 雅夫/著 雄山閣 383.5/ケ/18

日本の伝統的な化粧は赤（口紅）、白（白粉）、黒（お歯黒・眉作り）の 3 色が中心です。この 3 色を取り上げた化粧の歴史が書かれています。浮世絵や化粧品のレトロな広告などの図版が楽しく、化粧道具、化粧品の進化の過程やエピソードが興味深く紹介されています。お歯黒を描いた版画はクスッと笑えます。



## 『トコトンやさしい化粧品の本』

福井 寛/著 日刊工業新聞社 576.7/ト/19

化粧をするうえで欠かせないのが化粧品です。化粧品と医薬部外品の違いから、原料、作り方、化粧の仕方やアレルギー、環境問題まで、様々な角度から研究分析されたことが、イラストを用いてわかりやすく紹介されています。日常なにげなく使っている化粧品の基本がわかります。自分に合った化粧品を探すためのヒントが満載です。